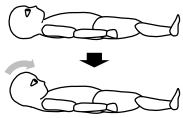
CHILDHOOD MYOSITIS ASSESSMENT SCALE (CMAS)

Reset

スコア合計 0 点

1. 頭部挙上

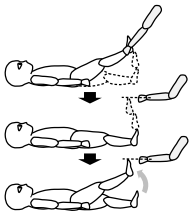


被験者は腕を体幹につけて仰臥位の状態。
検者は、肩を動かさないように頭部を挙上し、そのままの姿勢でいるよう指示する。床から頭が上がった瞬間から、床に頭をつけるまでの時間を測定する(最大120秒)。
※サポートはせず、床と被験者の後頭部の間に指が入るくらいの隙間があれば挙上していると判断する。高さ(屈曲の角度)は維持する必要はない。

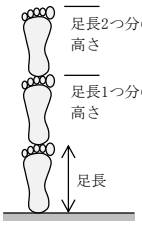
5点: 120秒間以上
4点: 60-119秒間
3点: 30-59秒間
2点: 10-29秒間
1点: 1-9秒間
0点: 頭部挙上不可能

点

2. 下肢挙上(高さ)



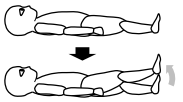
被験者は下肢を伸展させた仰臥位の状態。
検者は被検者の右下肢を持ち上げ、床から足長2つ分の高さを把握し、一旦下肢を休ませる。検者は被検者に対して握り拳や玩具などで足長2つ分の高さを示し、その高さまで足を上げるよう指示する(臥位の状態でボールを蹴るような仕草)。
※骨盤が動かなければ膝を曲げてもよい。



2点: 挙上は可能で、足長2つ分の高さまで一瞬でも挙上可能
1点: 挙上は可能だが、足長2つ分の高さまでは挙上不可能
0点: 挙上不可能

点

3. 下肢挙上(時間)

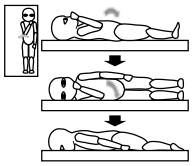


被験者は仰臥位の状態。
検者は、右下肢を伸展させたまま足長1つ分の高さまで上げて、可能な限り維持するように指示する(最大120秒)。足長1つ分の高さになったところから時間を計測する。膝を伸ばし続けられなくなった場合、床に踵がついた場合、120秒経った場合に終了とする。
※膝は曲げないように注意し、過度に足を上げようとした場合は止めさせる。
※骨盤は動かさない。
※下肢が下がってきても声かけをして元の高さに戻すよう頑張ってもらう。

5点: 120秒間以上
4点: 60-119秒間
3点: 30-59秒間
2点: 10-29秒間
1点: 1-9秒間
0点: 挙上不可能

点

4. 仰臥位から腹臥位への寝返り

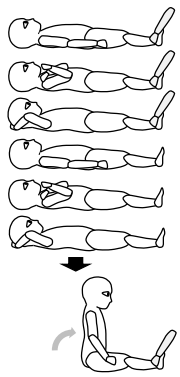


被験者は仰臥位で、右肘関節を屈曲させ、右手首が顎の下にある状態。
検者は、右腕を床に押しつけるようにに寝返りをして、途中で右腕を体幹から引き抜き、最終的に腹臥位になった際に右腕が自由に動かせる状態になるよう指示する。

3点: 何の問題なく寝返りして、難なく右腕を引き抜き、完全な腹臥位が可能、
2点: 寝返り途中での右腕の引き抜きに時間を要するが、最終的に右腕を引き抜いた状態で完全な腹臥位が可能
1点: 体を傾けることは難なく可能だが、右腕が床と体幹の間で動かせない状態となり、完全な腹臥位が不可能
0点: 体を傾けることも難しく、右腕の引き抜きも不可能

点

5. 仰臥位から長坐位

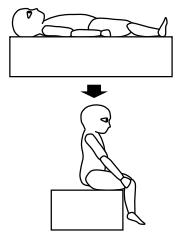


被験者は6パターンの上体起こしを行う。
① 仰向けから股関節・膝関節を伸展させた状態から手を大腿に置く。検者は被検者の足首を押さえ、被験者は手や肩、反動を使わずに上体を起こす。上体を起こす間、手は大腿に置いたままにして、ズボンなどは掴まない。肘は床につけてはいけない。
② 手を反対側の肩に載せ、胸の前で腕を交叉させた状態を保ったまま、同様に上体を起こす。肘は胸から離れてもよいが、手は肩に触れたままでなくてはならない。
③ 頸もしくは後頭部の後ろで両手を組みながら上体を起こす。
④ ①を行う際に検者が足首を押さえずに行う。
⑤ ②を行う際に検者が足首を押さえずに行う。
⑥ ③を行う際に検者が足首を押さえずに行う。

①～⑥でそれぞれ
1点: 脊柱が床と垂直になるまで、上体起こしが可能(長坐位)
0点: 不可能
(0-6点)

点

6. 仰臥位から端坐位

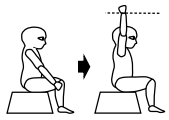


被験者は検査台で仰臥位の状態。
検者は、端坐位(検査台から両下肢を落とす坐位)になるよう指示する。
※手や腕は必要に応じて自由に使って良い。

3点: 何ら苦労せず可能
2点: 辛うじてとまではいかないが、いくらか苦労したり時間がかかる
1点: 苦戦したり、時間がかかるなどして辛うじて可能
0点: 自力では不可能(手助けが必要)

点

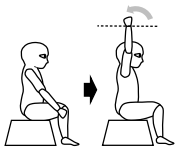
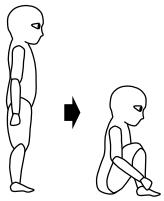
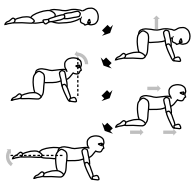
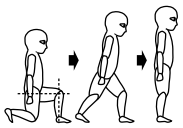
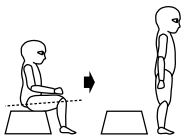
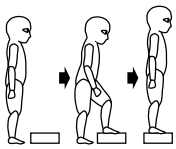
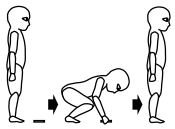
7. 上肢挙上(高さ)



被験者は坐位の状態。
検者は、両肘を伸ばしたまま手首が頭上にくるように、両上肢を正面に挙上するように指示する(小さな子には玩具を頭上に差し出し、両手で掴むように指示する)。

3点: 肘を伸展させたまま床と垂直になるまで両腕を挙上可能
2点: 手首は頭上まで挙上可能だが、肘が屈曲する
1点: 手首は肩鎖関節の高さまで挙上可能だが、頭上までは挙上不可能
0点: 手首は肩鎖関節の高さまで挙上不可能

点

8. 上肢挙上(時間)		
	被験者は坐位の状態。 検者は、両手首が可能な限り高くなるように両上肢を同時に挙げ(理想的には頭の真上)、その姿勢を可能な限り維持するように指示する(最大60秒間)。手首が頭上に達したところから時間を測定し始め、頭上から下がった時点で計測終了とする。 ※計測中は前腕が床と垂直になるよう促し、そこから前腕が傾いても手首が頭上にあれば計測を続ける。 ※被験者は努力しなければならないが、肘を完全に伸ばすのは難しいことを知っておく。 ※計測中、頸椎は自然な位置に保つ。	4点: 60秒間以上 3点: 30-59秒間 2点: 10-29秒間 1点: 1-9秒間 0点: 腕を頭上に一瞬たりとも維持不可能	点
9. 立位から床に座る		
	被検者は立位の状態。 検者は、被験者に支えがない状態で、その場に安全に座るように指示する。 ※被検者がためらった際、検者は促してはならない。その場合、椅子を用意する。	3点: 何ら苦労せずに安全に座ることが可能 2点: やや緩慢であったり、バランスが少し崩したり、大腿や床に手をつくなど苦労する様子だが、椅子の支えなしで安全に座ることが可能 1点: 椅子の支えを許可すれば座ることが可能(支えなしでは安全に座ることは不可能) 0点: 座ることが不可能(座る動作ができず)、椅子の使用を許可しても怖がり、嫌がる。	点
10. 腹臥位から四つ這い		
	被験者は腹臥位の状態。 ① 検者は、四つ這いの体勢(両手と両膝に全体重がかかるよう)になるように指示する。 ② 四つ這いになれたら、背筋を伸ばして真正面が見えるように顔部を挙上し(床面と顔が垂直に)、その姿勢を保持するよう指示する。 ③ そのまま前に(手と膝がすべて別の場所になるよう)進むよう指示する。 ④ すべて可能であれば、四つ這いの状態から片脚が床に水平になるよう伸展するよう指示する。	4点: 四つ這いでバランスを保って、体幹の高さまで片脚の挙上が可能 3点: 四つ這いを安定して保持して、前に進むことが可能 2点: 顔を正面に向けて四つ這いの保持は可能だが、前進は不可能 1点: かろうじて弱々しく四つ這いを保持できるが頭部挙上は不可能 0点: 四つ這いの姿勢が不可能	点
11. 膝立ちから立ち上がり		
	被験者は膝立ちから、床に手をついてもよいので、右膝を床に付けたまま、左膝関節と左股関節をともに90度屈曲させ、左足を正面に出した状態。 検者は、この姿勢から立位をとるように指示する。 ※可能であれば手は膝や大腿、床にはつかないようにする。支えがないと難しい場合は椅子を用意する。	4点: 苦労なく立ち上がり可能 3点: 膝や大腿、床に手をつかずに立ち上がり可能だが、苦戦したり、緩慢である場合 2点: 片手もしくは両手を膝や大腿、床につければ立ち上がり可能 1点: 椅子に手をつけば立ち上がり可能 0点: 椅子に手をついても立ちあがり不可能	点
12. 椅子からの立ち上がり		
	被検者は年齢相応なサイズ(下腿が床と垂直になる座り方で、大腿遠位部が近位部よりわずかに高くなる座面の高さ)のアームレスチェアに坐位となる。 検者は、起立するよう指示する。 ※坐位の際の脚の広げ方は問わないが、爪先は正面を向いた状態とする(脚は外旋はさせない)。 ※必要に応じて前屈してもよい。	4点: 苦労もなく起立可能 3点: 手を使わずに起立可能だが、苦労している様子 (緩慢、ぎこちない、反動が必要など) 2点: 片手もしくは両手を膝や大腿に置けば起立可能 1点: 椅子に手をつけば起立可能 0点: 椅子に手をついても起立不可能	点
13. 踏み台へ登る		
	被検者は立位となる。 被検者の足元に年齢相応な高さの踏み台 (足底から膝の高さの1/3くらいで、年長児であれば15-20cm程)を足元に置き、支えとするためのテーブルを横に置く。 検者は、テーブルや検者もしくは被検者自身の膝や大腿に手をつかないように、踏み台を昇るように指示する。	3点: 支えなく登ることが可能 2点: 膝や大腿に手をつけば登ることが可能 1点: 片手をテーブルや検者の腕などを支えにすれば登ることが可能 0点: テーブルや検者の助けがあっても登ることが不可能	点
14. 立位から床のペン拾い		
	被験者は立位となる。被検者の足元にペンを置く。 検者は、前屈して床に置いたペンを拾い、元の立位に戻るよう指示する。	3点: 問題なく可能 2点: やや苦労するが可能 (軽く膝や大腿に手をつける、やや緩慢な動作など) 1点: 拾ってから立位に戻る際に、膝や大腿に手をつかないと不可能 0点: 拾うことも立位に戻ることも不可能	点